

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800045		
法人名	社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会		
事業所名	いこいの村・とくらの家		
所在地	京都府綾部市十倉名畑町欠戸20番地の1		
自己評価作成日	平成25年2月4日	評価結果市町村受理日	平成25年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元の綾部市東部地域出身の方が優先的に利用できるよう利用基準を設け、共通の経験や話題が日常的に感じられるように工夫している。母体施設のいこいの村聴言センターは設立から30年、地元綾部東部地域の福祉の担い手として事業を展開している。法人内には訪問介護事業所、通所介護事業所、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム、地域包括支援センターなどがあり、それらの事業所と連携を密にとり、これまでの暮らしの継続が図れるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosvoCd=2691800078-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8501京都市下京区西木屋町通上の口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	平成25年2月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は綾部市東部地域の高齢者が優先的に利用できるよう開設されたグループホームで、高齢者の生活を支える視点から、綾部市域の中で一番低廉な利用料にしている。建物も地元の民家を模して、梁、天窗、土間、縁側があり、利用者が馴染みやすい造りとなっている。ホームの理念「住み慣れた地域で一人ひとりが大切にされる家」の実現を目指して、利用者の地域生活を豊かにするため、自治会に加入し、地域慣わしの清掃や除雪活動を利用者とともにし、地域の祭り(こんびらさん、十倉まつり、川まつり)に地域の一員として積極的に参加している。利用者が通っていた地域の高齢者学級、高齢者サロンへの参加や馴染みの喫茶店、美容室の利用など利用者のこれまでの生活が継続できるよう支援している。事業所はホームの側にある小学校グランド跡地に建設される「いこいの村」の訪問介護・通所・介護居宅介護事業所・地域包括支援センター(今年5月完成予定)と一体的連携を行い、ホーム利用者の暮らしをさらに充実し、地域の高齢者を支える担い手とした発展することを目標に施設長、管理者、職員が一体となっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度を前期と後期に分け中間総括と年間総括を実施し、理念の確認や実施状況が理念に基づいたものになっているか係会議で話し合っている。	法人理念を踏まえ、事業所理念を作り、目立つ字体で理念を玄関に掲示している。理念に基づき、年間方針を作り、毎月の係会議で実践状況を検証するとともに、前期末に中間総括、年度末に年間総括を行い、利用者一人一人が大切にされ、地域の中で生活できるホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや、近所の幼稚園の運動会に参加し交流を行っている。	自治会に準会員として加入し、地域の慣わしの除雪、清掃活動を利用者と一緒に参加している。地元の十倉まつりや幼稚園の運動会、利用者が通っていた高齢者サロン、高齢者学級などに参加し、交流を深めている。地元から野菜の差し入れもある。いこいの村まつりへの住民参加があるが、ホーム行事への住民参加やボランティアの受け入れが課題である。	ホームの側の小学校跡地に法人の訪問介護、通所介護、地域包括等の高齢者を支える地域拠点が完成する5月を契機に住民のホーム行事への参加やボランティアの受け入れを実現されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の他事業所と連携して認知症サポーター養成講座を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月度の運営推進会議は1周年記念お祝い会とし、委員の方々にも参加していただいた。また運営推進会議の中で出された意見を基に、地元の消防団と一緒に夜間避難訓練を実施した。	会議ではホームの状況がパワーポイントで報告され、避難体制や医療体制の整備、職員の確保などについて、活発に意見交換し、その中から、消防団との夜間避難訓練などを実現するなど運営に活かされている。	家族(代表)は会議メンバーであるが、全家族は参加できないので、議事録を送付されることや長崎の教訓を踏まえ、消防団をメンバーにされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員に出席いただき、事業所の実情を伝え、意見をいただいている。	綾部市高齢者介護課職員は毎回、運営推進会議に出席し、助言をするなど日常的に連携している。また、市の介護サービス事業所連絡会、介護支援専門員会議などに参加し、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なし。 部会のなかで身体拘束に関する研修をおこない、身体拘束はしないという考え方を学び、実践している。	法人で身体拘束防止マニュアルを定め、高齢者福祉部会、在宅サービス向上委員会などで研修を実施し、係会議でも伝達するなど言葉を含め拘束ゼロの徹底をしている。係会議でもリスク(事故やヒヤリはっど)の話し合いをしている。玄関は夜間のみ施錠し、一人で外出されたときは見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する外部研修に施設長・管理者が参加した。施設長は綾部市が行う虐待ケース会議にも参加している。また3月部会において虐待をテーマに研修を行う予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は認知症介護実践リーダー研修において権利擁護制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	24年度介護保険法改定の際には、ご家族に来所いただき十分な説明ができるよう努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口、担当者を玄関に掲示している。また契約の際にも説明を行っている。運営推進会議にはご家族代表委員として交代で参加していただき意見を伺う機会を設けている。	苦情対応マニュアルを定め、苦情受付の掲示(玄関)を行い、家族に説明している。運営推進会議、面会、行事の時に家族の意見を聞いている。利用者には担当者を決め、「私の姿と気持ちシート」などを活用し、要望の把握を日常的に行っている。また、初めて家族アンケートを実施し、意見、要望の把握に努め、居室の変更、衣替えなどの要望に対応している。	開設記念日などを活用し、家族同士の情報交換や親睦を深める家族交流会を企画されることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	係会議を月1回開催し、各職員が意見を述べられる機会を設けている。	毎月の職員会議を基本に、食事・余暇活動・行事のチーム会議で職員と話し合い、ホームの運営を行っている。職員面談(12月)も実施している。開設1周年記念事業は職員企画で行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人就業規則に則り就業環境の整備を行っている。施設長は月1回の係会議に必ず参加し、直接各職員の状況を把握できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で経験年数や役割に応じた研修を企画・実施している。またどの職員に外部研修に参加してもらうかも施設長と相談し、力量に応じた研修参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長と管理者は綾部市介護支援専門員会に加わり、研修や交流に参加している。施設長は京都府介護支援専門員会中丹ブロック委員。他の事業所との交流に参加し、職員とも情報共有に心掛けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの関係を活かしつつ、出来るだけ本人の居室でゆっくり相談を受けるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接ではセンター方式のアセスメントシートを活用し本人やご家族の状況を把握した。月に1回ケース担当から利用者の近況を手紙で報告し、職員との信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時・入所時のアセスメントを踏まえプランに反映させている。 利用開始については外部委員の参加する利用検討委員会に諮り、様々な立場から意見をいただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活を継続できるようにと日常生活のなかで、本人の力が発揮できるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に定期的通院の付き添いに来ていただいたり、センター方式のシートをご家族に記入いただいたりしている。 2名の方の居室の入れ替えを行ったことがあるが、その際には、ご家族が電話や面会で本人が安心できるよう支援いただいた。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から行きつけの医院や美容院に継続して通えるよう支援している。また法人内のデイサービスに遊びに行き馴染みの方と出会う機会を持つようにしている。	利用者の馴染みの人や場所はセンター方式の生活史シートで把握している。これまでの生活の継続を基本に、地域の高齢者サロンへの参加、馴染みの美容室の利用、墓参りなどの支援をしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のおたがいの不満が顕在化しないよう配慮し、日々の引き継ぎや記録で情報共有している。トラブルのきっかけになりやすい利用者には、職員が仲介に入り良好な関係が保てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特別養護老人ホームに入所された利用者には面会に行ったり、職員間での情報提供を行っている。 入院し、契約終了した利用者の面会、ご家族へのフォローを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間シートとセンター方式のシートを活用し、これまでの暮らし方や言葉から本人の意向を把握できるよう努めている。	24時間シート、私の姿と気持シートを活用して思いや意向を把握し、その実現に努め、生家に行くことなどを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には全職員で生活歴等の入所前の情報を会議・資料で確認している。また日常的な会話の中で話題にし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートに活動状況や心身の状況を記録し、職員間で共有した上で支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のケース記録や24時間シートにケアのあり方やアイデアを各職員から提案するとともに、月1回の係会議でケース担当を中心にモニタリングを行っている。	利用者、家族と話し合い、アセスメントを行い、職員会議で、利用者の生きがい、趣味を含めた介護計画を検討し、作成している。毎月、職員会議でモニタリングを行い、必要な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・24時間シートを個別に作成し記録を行っている。その記録を基に声かけの仕方・時間等の見直しや工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他の事業所連携してニーズの変化に対応できるよう取り組んでいる。事業所行事に参加していただけるようご家族の送迎をおこなったり、利用者の急な外出希望にも対応できるよう職員体制を工夫し、可能な限り利用者やご家族のニーズにこたえている。マッサージを希望される利用者には、なじみの治療院と連携し往療をお願いするなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元地域の祭りや幼稚園の運動会に参加し、利用者の生活に楽しみが増えるよう努めている。夕食は、法人内の配食サービスを活用し母体施設のいこいの村から届けてもらっている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前からのかかりつけ医に受診している。かかりつけ医のいなかった利用者には、利用者・ご家族の意向を確認したうえで、協力医療機関に職員同行し受診を支援している。	かかりつけ医の受診継続を支援し、情報交換している。かかりつけ医のいなかった利用者には認知症専門医のいる協力医療機関への受診支援をしている。綾部市内の医療・看護・介護関係者でつくるネットワーク(あやいかネット)の活用もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職と連携し、医療的な処置や知識が必要な場合にはすぐに対応できるよう体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、面会に行き病院関係者との情報交換を行っている。医師との面談を通じて、利用者ひとりひとりの状態や方針を相談し、早期の退院が実現できた事例もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し医療的なフォローが必要になった場合の支援のあり方については、入所契約の時から説明をし、事業所でできる事を理解していただけるように努めている。	終末期対応の指針を作成し、契約時に利用者、家族に説明して話し合いをしている。看取り経験はないが、職員研修を行い、指針の共有化に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初年度に全職員が救急救命講習を受講した。経験の長い職員から異変に気付くポイントを後輩職員に伝えている。本体施設の特養の看護師にすぐ連絡出来る様に体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定・夜間の火災想定・地震想定避難訓練を各1回づつ実施した。夜間避難訓練では地元消防団にも参加していただいた。	スプリンクラー、通報装置を含む消防設備やAEDを完備している。消防署指導の下、災害訓練を年3回実施し、毎月、職員のみで訓練をしている。近隣の住民の方に消火訓練に参加していただいている。夜間の避難訓練は地元消防団と協力して行った。ホームが災害の時、ホームから綾部消防局に通報すれば地元の口上林の全消防団に消防局から通報する体制もできている。災害備蓄はいこいの村に備えている。	災害備蓄をホーム独自で備えるとともに、運営推進会議の時にあわせて訓練を行うなどメンバーの訓練参加が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けや対応をしている場面に気付いた際には、会議の場で意見交換したり職員同士注意を促したりしている。	個人情報保護指針を作成し、掲示を行い、個人情報に関する家族同意、守秘義務の職員誓約書を取っている。認知症高齢者対応マニュアルも策定され、人権、接遇などの職員研修も実施されている。トイレ誘導などの声かけは配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な取り組みでは職員から強制して行うのではなく、利用者の意思を確認してから参加していただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴など時間を決めず、出来るだけ本人の自発的な動き、ペースにあわせている。希望があれば居室に食事を運ぶなど臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めや散髪等のお洒落ができるよう支援している。化粧品を毎日使用される方もおられ、使い切った際には購入に行く支援をしている。居室には洗面台が設置されており、起床時には櫛で髪をとかすなど身だしなみが整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付けはほぼすべての利用者がされている。 食事作りは洗う、切る、盛り付けるなどの作業で利用者の力を活かせるよう支援している。 山菜や栗、事業所の畑で採れた野菜も食材として使い、食べるだけではない楽しみが提供できるよう努めている。	季節を感じる旬の食材で食事づくりをしている。畑で利用者が作った野菜(大根、トマト、ナス、キュウリ等)が食卓に上る時もある。2ヶ月に1回はやしそばなど利用者全員で作る食事会もある。お誕生日の昼食はリクエスト食としお祝いしている。。利用者は食材の買物、下ごしらえ、配膳、下膳など出来る事をしている。夕食はいこいの村からの配食であるが、今後は三食とも手作りを計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シートに食事量、水分摂取量を記録し状況把握をしている。 利用者の状況に合わせて、細かく切るなど食べやすくなるように配慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前と起床時に義歯の洗浄を支援している。本人の力で出来る方、声掛けが必要な方など本人の力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートで把握した排泄パターンを基にトイレへの促しをするなど工夫している。	トイレ排泄を基本に、排泄パターンを把握し、声かけに注意しながらトイレ誘導している。現在、オムツ使用の利用者はおられないが、失禁が少なくなり、トイレ排泄ができるようになった方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には朝に冷水を飲んで頂いたり、バナナを食べていただくなど自然に排便ができるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される方には毎日入浴していただいている。入浴時間は固定せず、本人が入りたいと思える時間にはいれるよう配慮している。入浴したが入浴したことを忘れてしまう利用者には、本人が不安にならないよう、二度目の「入浴したい」という訴えも否定せず1日に2回入浴していただくこともある。	同性介助を基本に個浴で、一人ひとりお湯をかえている。夜間は午後8時を目安にしているが、利用者の希望(時間、曜日、回数)に応じて入浴してもらっている。重度化に備え、リフト浴も完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は一日中居室で寝ている事にならないよう考慮しながら、本人のペースに合わせてしてもらっている。また特に就寝時間も定めておらず本人のペースに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース記録と一緒にファイルし、目的や副作用について情報共有をしている。服薬もれのないよう支援のマニュアルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や編み物、草引き等の得意な事を活かせる場や、日常的に歌を歌って楽しめる場を設定している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月に利用者を2グループに分け遠足に出かけた。日常的な外出としては買い物、畑、いこいの村との交流などがある。またご家族の付き添いで、他の事業所に入所中の家族に会いに行かれたり、自宅へ帰省されたりする方もおられる。	日常的には、畑での野菜作り、買物、いこいの村との交流などで外出している。季節ごとの外出行事(花見、栗拾い、春と秋の花壇展等)もある。地域の祭り(こんびらさん、十倉まつり、川まつり)も楽しんでいる。馴染みの理髪店へ行く、かつて通院していた医者に会いに行くなど利用者の希望を大切に外出支援している。重度化を考え、車椅子対応の車も用意している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は預からず施設が立て替える形をとっている。自分で現金を管理されている方は1名おられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかける際には利用者にも電話に出ていただくようにしている。年末には希望者には年賀状出しの支援を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は地元の民家を参考に和室、土間スペースを設け利用者にとって馴染みある雰囲気になる様配慮してある。 リビングには手作りのカレンダーや花を飾り、季節感が感じられるよう工夫している。リビング続きの和室にはテレビ、こたつ、ソファを置きくつろげるようにしている。玄関や床の間に花を活けにきて下さるご家族もある。	ホームは地元民家を模した造りでゆったりとスペースをとり、色調は中間色で利用者に馴染んだ造りである。玄関や床の間に家族の手による生け花が飾られている。リビングは車椅子でも対応できる台所と一体で、フローリングの床暖房で、利用者手作りのカレンダーや季節の花が飾られている。居間は和室でテレビ、ソファ、こたつ置き、くつろげるようにしている。昼食時にテレビを消すなど音に配慮し、広めの窓は二重サッシ、二重カーテンと温湿度、光に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は利用者同士の相性を考慮し配置している。 食事の席に利用者が集まり、歌を歌い始められたり、和室のソファで休まれたりと利用者思い思いの過ごし方をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族に本人が使い慣れた物をなるべく持参されるようお願いし、タンスやこたつ、食器など馴染みの物の中で生活できるよう配慮している。 家族の写真や位牌、神棚を持ち込まれている利用者もおられる。	居室入口には自筆による表札と利用者による生け花が飾られ、エアコン、押入れ、洗面台が備え付けられており、ベランダ付である。利用者はタンス、仏壇などを持ち込み、自宅と同じように使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置は利用者の身長に合わせて高さを工夫してある。洗面台、リビングの流しも出来るだけ本人の力で使っていただけるよう高さを調整し設計している。		